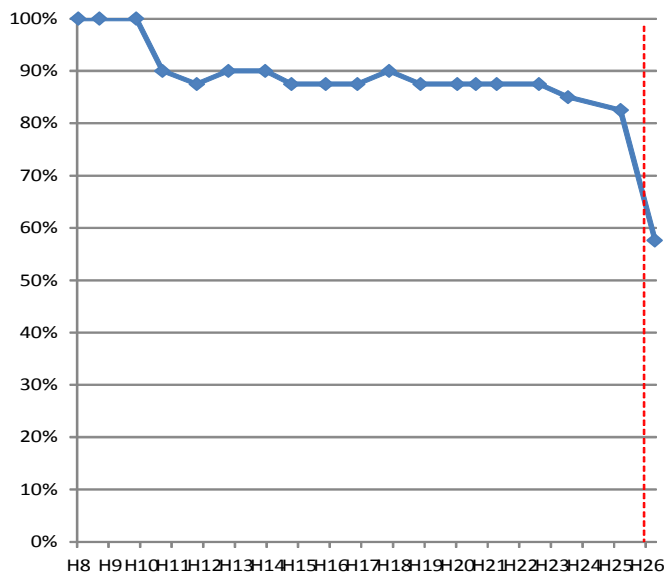


樹種名	ウバメガシ		
科 目	ブナ科		
学 名	<i>Quercus phillyraeoides</i>		
分 布	神奈川県以南、四国、九州、琉球列島に分布する。		
樹木特性	半陰樹であり、ふつうは海岸低木林として群生するが、まれに内陸までみられる。ウバメガシ林の林床は乾燥し、下草は乏しい状況となる。		
用 途	材が堅く本種からは備長炭が作られる。		
植栽本数/面積 (植栽密度)	66 本／0.02ha (3,000 本／ha)		
特 徴	【樹 形】 常緑小高木で、高いものだと 20m 近くまで成長するが、通常は 5~6m 程度の低木が多い。樹形は、ごつごつしていて、樹皮には独特の縦方向のひび割れが出る。若枝には黄褐色の柔らかな毛が密生する。 葉は倒卵形で長さ 3~6cm、やや表側に盛り上がり、周辺には鋸歯がある。また、葉はやや厚くて硬く、表面には強い照りがある。雌雄同株。堅果(どんぐり)は長さ 2cm 前後で楕円形、色は褐色。 材は緻密で極めて硬い。比重が大きく、水に入れると沈む。ウバメガシは日本産の常緑のカシ類では特に丸くて小さく、また硬い葉を持つカシである。海岸や岩場に多く、しばしば密生した森を作る。日本の暖地では海岸林の重要な構成樹種の一つである。また乾燥や刈り込みに強いことから街路樹などとしてもよく使われ、その材は密で硬く、特に備長炭の材料となることでよく知られている。		
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 8m 程度まで成長している。		
被 害	コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。		

ウバメガシ 現存率



【現存率】

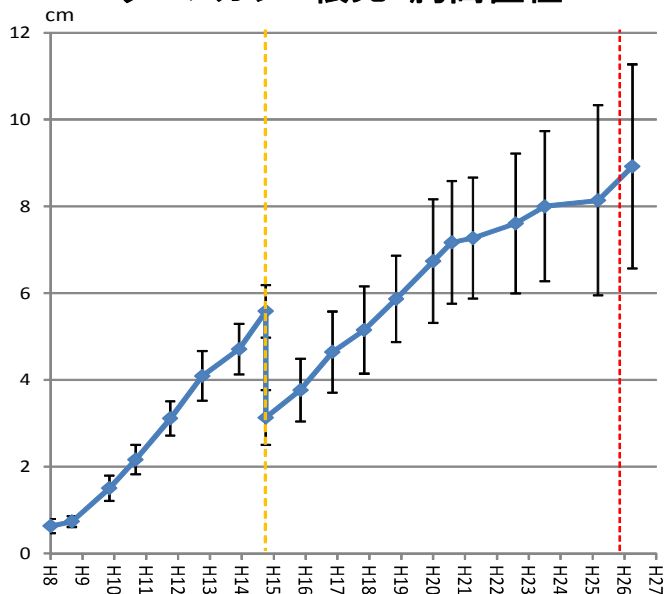
植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。

林内の照度調整を図るため平成 21 年度、平成 24 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 57.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ウバメガシ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

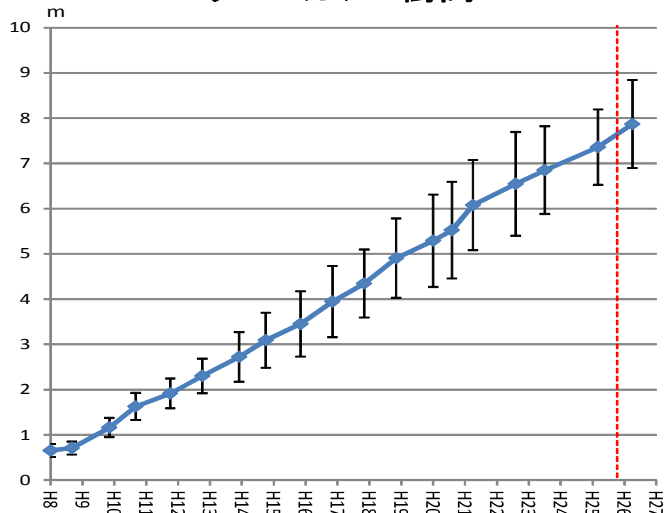
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、8.92 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ウバメガシ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、7.87m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

